

Daily Report(号外)

～FOMCの結果について～

概要

FRB(米連邦準備制度理事会)は7月30-31日に開いたFOMC(連邦公開市場委員会)で、フェデラルファンド(FF)金利の誘導目標を8会合連続で5.25～5.50%に据え置くことを全会一致で決定しました。

声明文では、インフレが「高止まり」しているとの文言が「幾分高止まり」しているという表現に和らげられました。同時に、「インフレリスクに非常に注意を払う」という文言が削除され、物価安定と雇用の最大化という「二大責務の双方のリスクに注意を払う」という表現に変更されました。

パウエル議長はFOMC後の記者会見で、さらに一步踏み込み、今後のインフレ指標で足もとのインフレ鈍化傾向が裏付けられれば「次回の会合で政策金利を変更できるという確信が高まっている」と表明しました。

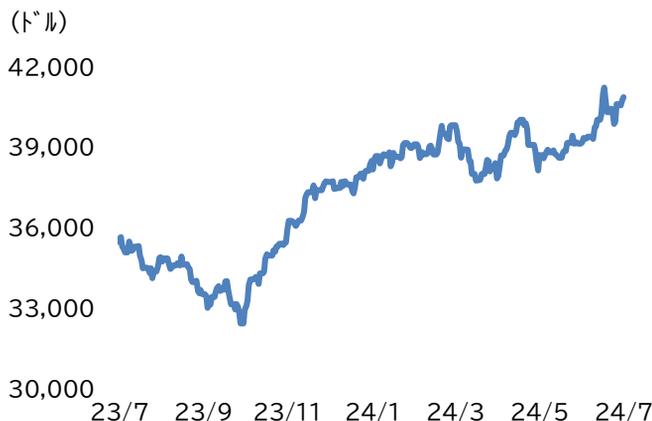
市場の反応

米国株式市場は、AI関連企業への期待などからFOMC前から堅調地合いとなっていました。総じてハト派であったFOMCの内容を受けてもう一段の上昇が見られ、NYダウは前日比99.46ドル高の40,842.79ドルで取引を終えました。

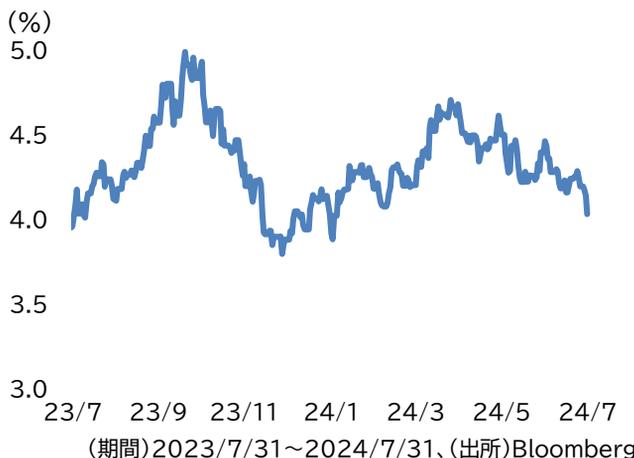
債券市場では、声明文に対しては小動きとなりましたが、パウエルFRB議長の記者会見を受けて利回りが急低下(価格は上昇)し、米国10年国債利回りは前日の4.14%から4.03%まで大きく低下しました。

外国為替市場では、東京時間の日銀の追加利上げを受けて、1ドル=153円から150円前後まで大幅なドル安・円高が進みましたが、FOMCによる影響は限定的でした。

NYダウの推移



米10年国債利回りの推移



(期間)2023/7/31～2024/7/31、(出所)Bloomberg

運用実績等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

また、シミュレーション等(前提は資料参照)については結果を確約するものではありません。

評価及び今後の見通し

今回の声明文は、FOMCの政策決定がインフレリスク重視から、物価安定と雇用の最大化の二大責務をバランスさせるものへとシフトしたことを示しています。また、パウエルFRB議長の記者会見は声明文よりもやや金融緩和に積極的な内容であったこともあり、インフレ率の抑制が前提となりますが、9月の利下げに向けてうまく準備が整えられたと評価しています。

さらに、声明文には雇用の鈍化を認める記載があり、次回の9月会合までに雇用市場の悪化が確認されれば、より金融緩和に積極的な姿勢を取る可能性があると考えられます。

(ご参考)今後の主要イベント

日程	イベント
8/22 - 8/24	ジャクソンホール
9/12	ECB理事会
9/17 - 9/18	FOMC
9/19 - 9/20	日銀金融政策決定会合

出所: Bloomberg